

## どのような小学校教員を育てるか

稲葉喜徳\*

### 要約

2017年4月に設置された学校教育学科は「どのような小学校教員を育てるか」—それが本稿のテーマである。最初に昔話「桃太郎」について福沢諭吉など三人の見解を概観し、「桃太郎」が戦前の軍国主義教育だけでなく戦後の経済至上主義教育においても一定の役割を果たしてきたことを確認する。そして現在、わが国は子どもの貧困や若者の非正規雇用・未婚化など深刻な問題を抱えていること、教師の勤務環境も厳しさを増していることを指摘する。その上で『『山びこ学校』の卒業式の答辞』、「米国のオバマとリンカーン両大統領の演説」、「独仏共通歴史教科書」の三つの事例から、新設の学校教育学科が目指すべき教員養成の理念について検討を行っている。

キーワード 桃太郎 山びこ学校 米国大統領 独仏共通歴史教科書

### 目次

1. はじめに
2. 昔話「桃太郎」を巡って
  - 2.1 「桃太郎」の昔話と文部省唱歌
  - 2.2 福沢諭吉の「桃太郎盗人論」
  - 2.3 芥川龍之介の小説「桃太郎」
  - 2.4 田辺昇一氏の「桃太郎の教訓」
  - 2.5 経済至上主義の教育
3. 『山びこ学校』の卒業式の答辞
  - 3.1 佐藤藤三郎の答辞
  - 3.2 無著成恭の「詩」と「あとがき」
  - 3.3 学校教育学科の目指すべき方向（1）
4. 米国大統領の演説
  - 4.1 オバマ大統領の退任演説とWe
  - 4.2 リンカーン大統領のゲティスバーグの演説とWe
  - 4.3 トランプ氏について
  - 4.4 学校教育学科の目指すべき方向（2）
5. 独仏共通歴史教科書
  - 5.1 独仏共通歴史教科書第3巻の出版
  - 5.2 独仏共通歴史教科書第3巻の内容
  - 5.3 ヴァイツゼッカー大統領の「荒れ野の四〇年」
  - 5.4 学校教育学科の目指すべき方向（3）
6. おわりに

## 1. はじめに

2017年4月、浦和大学こども学部に小学校の教員養成を目的とする学校教育学科が設置された。本稿は、その新設学科において「どのような小学校教員を育てるか」という基本理念について検討することを課題とする<sup>(1)</sup>。

一般的に教員養成については教員養成系大学の多くが崇高な理念を掲げており、東京学芸大学の場合、「大学の目的」は「豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成する」ことにあるとしている<sup>(2)</sup>。しかし、このような記述は抽象的で高邁に過ぎるとともに現実からの乖離も大きく、ここから生身の教師像を描くことは難しい。しかも現在、わが国の子どもや若者の置かれている状況は深刻であり、

- ①厚生労働省の「国民生活基礎調査」では7人に1人の子どもが貧困状態にあり、ひとり親世帯にあっては過半数が貧困状態であること<sup>(3)</sup>、
  - ②総務省や厚生労働省などの調査によると、約40%とされる非正規雇用の中で若者の場合は「不本意非正規」の比率が高く、未婚化や晩婚化も進んでいること<sup>(4)</sup>、
- など困難な状況に立ち至っている。

こうした現実を踏まえるとき、豊かな人間性や創造力などで理念を語るだけでは十分でなく、現在の子どもや若者、さらには教師そのものが置かれた状況も視野に入れ教師像を描くことが求められなければならない。

そこで以下、昔話「桃太郎」を題材としながら、新設学科の「小学校教員養成の理念」を具体的なイメージとして検討していくことにしよう。

## 2. 昔話「桃太郎」を巡って

### 2.1 「桃太郎」の昔話と文部省唱歌

「桃太郎」の昔話は次のように始まる。

ムカシ ムカシ アルトコロニ、オジイサントオバアサンガ イマシタ。毎日オジイサンハ 山へ 柴カリニ、オバアサンハ 川へ センタクニ 行キマシタ。アル日 オバアサンガ 川デ センタクラ シテイマスト、川上カラ 大キイ桃ガーツ ドンブリコッコ スッコッコ  
ドンブリコッコ スッコッコ  
ト ナガレテ来マシタ<sup>(5)</sup>。

おばあさんは桃の実を持ち帰り、桃からは桃太郎が生まれる。桃太郎はたくましい男の子に育ち、犬・猿・雉を家来にして鬼が島の鬼を成敗し、宝物を持って凱旋するというストーリーである。

1911（明治44）年5月から1914（大正3）年6月にかけて、文部省は尋常小学校の第一学年から第六学年の各学年用唱歌集全6巻を発行した。最初に出された第一学年用には20の

曲目が収録され、9番目の文部省唱歌「桃太郎」は今日でも年配者だけでなく子どもたちも親しんでいる。

- 一 桃太郎さん桃太郎さん、  
お腰につけた黍団子、  
一つわたしに下さいな。
- 二 やりましょうやりましょう、  
これから鬼の征伐に、  
ついて行くならやりましょう。
- 三 行きましょう行きましょう、  
あなたについて何処までも、  
家来になって行きましょう。

ただし、一番から六番の歌詞のうち歌われるのは三番までであり、続く四番以降はほとんど耳にしない。

- 四 そりゃ進めそりゃ進め、  
一度に攻めて攻めやぶり、  
つぶしてしまえ鬼が島。
- 五 おもしろいおもしろい、  
のこらず鬼を攻めふせて、  
分捕物をえんやらや。
- 六 万々歳 万々歳  
お伴の犬や猿雉は、  
勇んで車をえんやらや<sup>(6)</sup>。

日清・日露の戦争の時代であり、このようにすこぶる好戦的な内容となっているため現在は敬遠されているのだろう。

## 2.2 福沢諭吉の「桃太郎盗人論」

さて、明治の初めに「桃太郎」の昔話に異を唱えた人物がいる。『学問のすゝめ』により一世を風靡した福沢諭吉である。彼は当時の封建思想を批判し、「国民平等」と「独立自尊」を説いた。「国民平等」とは「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という考えであり、「独立自尊」とは「何事も独力で行い、それにより自己の人格の尊厳を保つ」という意味に解することができる。「独立自尊」は彼の造語とされ、戒名にも「大観院独立自尊居士」として用いられている。『学問のすゝめ』は全17編で、1872～1876（明治5～9）年に出され、初編が約20万冊、全編で約340万冊が全国に流布したという。当時の日本の人口は、戸籍法による明治5年の調査で3311万人（後に修正され3480万人）であり、ほぼ10人に1人の国民が『学問のすゝめ』を入手したことになる<sup>(7)</sup>。

ところで福沢諭吉は、もう一つの『学問のすゝめ』とも言える子ども向けの「ひゞのをし

へ」を書いている。これは彼が36歳のときに自分の息子たちに毎日一枚ずつ半紙に綴り与えたもので、家庭での約束や決まり事などが記されている。この中で、福沢諭吉は「桃太郎」について話題とし、次のように述べている。

もゝたるふが、おにがしまにゆきしは、たからをとりに行くといへり。けしからぬことならずや。たからは、おにのだいじにして、しまいおきしものにて、たからのぬしはおになり。ぬしあるたからを、わけもなく、とりにゆくとは、もゝたるふは、ぬすびとゝもいふべき、わるものなり。もしまたそのおにが、いつたいわるきものにて、よのなかのさまたげをなせしことあらば、もゝたるふのゆうきにて、これをこらしむるは、はなはだよきことなれども、たからをとりてうちにかへり、おぢいさんとおばゝさんにあげたとは、たゞよくのためのしごとにて、ひれつせんばんなり<sup>(8)</sup>。

これが「桃太郎盗人論」とも言われる桃太郎批判である。明治期を代表する知性の福沢諭吉にとって、「桃太郎」の行状は認めることができなかつたのであろう<sup>(9)</sup>。

### 2.3 芥川龍之介の小説「桃太郎」

さらにもう一人、「桃太郎」を批判的に捉えた作家がいる。芥川龍之介である。1924（大正13）年、彼は「桃太郎」と題する短い小説を執筆した。概略を紹介しよう<sup>(10)</sup>。

むかし、むかし、ある深い山の奥に大きい桃の木があった。この木は世界の夜明け以来、一万年に一度花を開き、一万年に一度実をつけていた。

一万年に一度結んだ実を、一羽の八咫鳥が谷川へ啄み落とし、赤子を孕んだ桃の実 は人間のいる国へと流れて行き、お婆さんに拾われた。

桃から生まれた桃太郎は鬼が島の征伐を思い立った。その訣はなぜかという、彼はお爺さんやお婆さんのように、山だの川だの畑だのへ仕事に出るのがいやだったからである。その話を聞いた老人夫婦は、内心この腕白者に愛想をつかしていたときだったから、一刻も早く追い出したさに旗とか太刀とか陣羽織とか、出陣の支度に入用なものは云うなり次第に持たせることにした。のみならず途中の兵糧には、これも桃太郎の注文通り、黍団子さえこしらえてやったのである。

桃太郎は意気揚々と鬼が島征伐の途に上った。すると大きな野良犬が一匹、餓えた眼を光らせながら、こう桃太郎へ声をかけた。

「桃太郎さん、桃太郎さん。お腰に下げたのは何でございます？」

「これは日本一の黍団子だ。」

「一つ下さい。お伴しましょう。」

「一つはやれぬ。半分やろう。」

犬はしばらく強情に「一つ下さい」を繰り返したが、桃太郎は何とんでも「半分やろう」を撤回しない。犬はとうとう嘆息しながら、黍団子を半分貰う代りに桃太郎の伴をすることになった。

桃太郎はその後もやはり黍団子の半分を餌食に、猿や雉を家来にした。

鬼が島は絶海の孤島だった。が、世間が思っているように岩山ばかりだった訣ではない。実は椰子が聳え、極楽鳥が囀る美しい天然の楽土だった。こういう楽土に生を受けた鬼は、もちろん平和を愛していた。

鬼は琴を弾いたり踊りを踊ったり、古代の詩人の詩を歌ったりしながら安穩に暮らしていた。鬼の妻や娘も機を織ったり、酒を醸したり、蘭の花束を拵えたり、人間の妻や娘と少しも変わらずに暮らしていた。殊に髪の毛の白い牙の抜けた鬼の母はいつも孫の守をしながら、人間の恐ろしさを話し聞かせていたものである。

お前たちも悪戯をすると、人間の島へやってしまうよ。人間の島へやられた鬼は昔の酒吞童子のように、きっと殺されてしまうのだからね。え、人間というものかい？人間というのは角の生えない、生白い顔や手足をした、何ともいわれず気味の悪いものだよ。おまけに人間の女は生白い顔や手足へ一面に鉛の粉をなすっているのだよ。それだけなら好いのだが、男でも女でも同じように、嘘はいうし、欲は深いし、焼餅は焼くし、己惚れは強いし、仲間同士殺し合うし、火はつけるし、泥棒はするし、手のつけようがないけだものなのだよ……。

桃太郎はこういう罪のない鬼に建国以来の恐ろしさを与えた。

「進め！ 進め！ 鬼という鬼は見つけ次第、一匹も残らず殺してしまえ！」

桃太郎は桃の旗を片手に、日の丸の扇を打ち振り打ち振り、犬猿雉の三匹に号令した。犬はただ一噛みに鬼の若者を噛み殺した。雉も鋭い嘴で鬼の子供を突き殺した。猿は人間と親類の間柄だけに、鬼の娘を絞殺す前に必ず凌辱を恣にした。

あらゆる罪悪の行われた後、とうとう鬼の酋長は命をとりとめた数人の鬼と、桃太郎の前に降参した。

「では格別の憐憫により、貴様たちの命は赦してやる。その代りに鬼が島の宝物は一つも残らず献上するのだぞ。」

「はい、献上いたします。」

「なおそのほかに貴様の子供を人質のためにさし出すのだぞ。」

「それも承知致しました。」

日本一の桃太郎は犬猿雉の三匹と、人質に取った鬼の子供に宝物の車を引かせながら、得々と故郷へ凱旋した。しかし桃太郎は必ずしも幸福に一生を送った訣ではない。鬼の子供は一人前になると番人の雉を噛み殺した上、たちまち鬼が島へ逐電した。

のみならず鬼が島に生き残った鬼は時々海を渡って来ては、桃太郎の屋形へ火をつけたり、桃太郎の寝首をかこうとした。

その間も寂しい鬼が島の磯には、熱帯の月明りを浴びた鬼の若者が五六人、鬼が島の独立を計画して椰子の実に爆弾を仕こんでいた。優しい鬼の娘たちに恋をすることさえ忘れたのか、黙々と、しかし嬉しそうに茶碗ほどの目の玉を赫かせながら……。

以上が、芥川龍之介の「桃太郎」という小品の粗筋である。おそらく芥川龍之介は第一次

世界大戦後の大正末期から日本が急速に軍国主義に傾斜していく状況に対し、それを黙認することができず独自のシニカルな視点に立ってこの短編を執筆したのであろう。それにしても鬼気迫る不気味な印象の作品である。

#### 2.4 田辺昇一氏の「桃太郎の教訓」

このような福沢諭吉や芥川龍之介とは異なり、戦後、「桃太郎」の昔話を積極的に解釈し活用した事例がある。経営コンサルタント会社「(株) タナベ経営」の創設者田辺昇一氏の「桃太郎の教訓」であり、それを次に紹介しよう。

田辺氏は2015年に93歳で逝去したが、現役のときは企業の関係者に「経営の神様・仏様・田辺様」と称えられるほど経営に関する識見が高く評価されていた。「桃太郎の教訓」は田辺氏の持論の一つで、「桃太郎の昔話から我々は何を学ぶべきか」という問い掛けから始まる。田辺氏はまず桃太郎を企業の経営者と見なし、家来のイヌ・サル・キジを企業が求めるべき人材と位置付け、鬼が島を企業が達成すべき経営目標と仮定する。桃太郎は鬼が島を成敗し宝物を手に入れるが、これは経営者が目標を成就し業績を上げたということで、そこにはイヌ・サル・キジという有能な部下の貢献があった。イヌは行動型の部下で、飼い主に忠実で獲物に対して攻撃的であり、サルは企画型の部下で、頭の回転が早く企画力に富み、キジは情報型の部下で、空を飛び情報収集力に長ける。これらの人材が組織には必要で、とりわけ今日の高度情報社会においては情報収集力と分析力が重要である、と説く。

この考え方を「桃太郎の教訓」と名付けて世に広めたのは田辺氏自身ではなく、『週刊朝日』の元編集長で評論家の扇谷正造氏であった。扇谷氏は1976年刊行の著書『桃太郎の教訓』などにおいて、企業経営者への貴重な教えとして田辺氏の桃太郎論を紹介した<sup>(11)</sup>。1970年代後半の低成長の時代に入った当時、田辺氏の桃太郎論は説得力に富む企業戦略として受け入れられ、熾烈な競争を余儀なくされていた多くの企業家の支持を得たのである。しかし、今日のようにブラック企業が多数出現し、従業員に過重な負担を強いている現状に立って振り返るとき、「桃太郎の教訓」は結果として負の側面を伴っていたのではないかという疑義が生じる。

田辺氏が企業コンサルタントとして活躍したのは、高度経済成長が終了した1970年代後半から2000年までの間である。わが国は1945年の敗戦から1950年代半ばまでの復興期を経て、1970年代初頭に至るまでの間にかつて経験したことのない高度成長期にあった。しかし1971年のドル・ショック、1973年の石油・ショックにより高度成長は終焉し、1974年には-1.2%という戦後初のマイナス成長となり、企業は生き残りを賭けた厳しい競争の時代へと移行していった。そしてそのころから、過酷な職場環境を反映する表現が登場することになる。それは「肩たたき、出向、単身赴任、サービス残業、過労死…」であり、過労死はkaroshiというスペルで2002年に英国の権威あるオックスフォード英語辞典に採録された<sup>(12)</sup>。これは「日本に特有の働き過ぎに起因する死に至る健康破壊」の意味であり、2015年末にも電通に勤務する24歳の女性社員が過労のため自ら命を絶つなど現在も連綿と続いている。田

辺昇一氏は、日本の企業と経営者に対し「桃太郎」に軸足を置いて叱咤激励したが、意図に反し、結果としてその延長線上では過労死やブラック企業を招いた、という批判を免れることはできないのではないかと問う。

福沢諭吉と芥川龍之介は昔話「桃太郎」に極めて懐疑的であった。教育者でもあった福沢諭吉は、鬼が島の鬼についてその尊厳を認め、所有物である宝物を奪った桃太郎を盗人と呼んだ。芥川龍之介は「桃太郎」と題する小説を書き、主人公の桃太郎を徹底して悪しき侵略者として描写した。文部省唱歌四番～六番の歌詞の背景にあるのは、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦と10年ごとに戦争を続けてきた大日本帝国という日本であった。そうした重苦しい空気の中で芥川龍之介は「桃太郎」を執筆し、3年後の1927（昭和2）年に服毒自殺をしたが、それは4年後に勃発する満州事変、それに続く日中戦争、太平洋戦争、第二次世界大戦、そして広島・長崎への原爆投下という悲惨な行く末を予感していたかのような死であった。そこへさらに、戦後の「桃太郎の教訓」を加えてみると、「桃太郎」という昔話はアメリカ・イギリスを「鬼畜米英」と呼称した戦前の軍国主義を体現しただけでなく、戦後においても軍国主義に代わる経済至上主義を鼓舞するものであったと言えるであろう。

## 2.5 経済至上主義の教育

財政学の泰斗宮本憲一氏は、このような戦後の日本を「企業国家」と名付けている<sup>(13)</sup>。つまり、1945年以降の日本は再び戦前と同じ軍事国家になることはなかったが、さりとて福祉を重視する福祉国家になったわけではなく、文化を大切にす文化国家になったわけでもなく、経済を何より優先させる企業国家になったという見解であり、日本の国は常に利益追求を余儀なくされた株式会社のようなもの、と見立てたのである。

では、企業国家とされたわが国の教育はどのような状況にあるのだろうか。当然のように教育は、企業が求めるイヌ・サル・キジという人材を養成する役割を担うことになる。戦後、中央政権が主導して行った教育改革は、1984（昭和59）年の「臨時教育審議会」、2000（平成12）年の「教育改革国民会議」、2006（平成18）年の「教育再生会議」が代表的であるが、そこでは例外なくいずれも経済発展に寄与する人材養成が強調されていた<sup>(14)</sup>。例えば「教育再生会議」の第2次報告書の「はじめに」においては、「目指すべき人間像」として下記のことが記されている。

グローバルな大競争時代に必要な最先端の「知」を生み出し、イノベーションを起こせる人材の養成や、国際社会で活躍できるリーダーを養成することに力を注がなければならない。

教育は経済発展のために寄与すべしとするこうした主張は、「臨時教育審議会」から「教育再生会議」に至る教育改革の骨子となり、教育はいわば経済の下僕とも言うべき地位に押しやられた。そこでの関心事は企業に利益をもたらす人材養成が中心となり、教育現場は競争原理が徹底され能力主義や成果主義が声高に唱えられ、その流れは現在も「全国学力調査」などにより増幅している。7人に1人の子どもが貧困状態にあり、非正規雇用の割合が

増大する中で若者の未婚率が増加していることはすでに述べたが、宮本憲一氏に企業国家とされた日本の国の教育は、それ自体、ブラック企業と同質の深刻な問題を内包するようになっていのである。

OECD（経済協力開発機構）は2006年の「対日経済報告書」において、「日本の相対的貧困率がOECD諸国の中で最も高い部類に属している」ことを指摘するとともに、教育の状況についても「所得の低い世帯の子どもは質の高い教育へアクセスできない恐れがあり、その結果、貧困が世代間で固定化され、学力の階層分化が進行する恐れがある」と警鐘を鳴らしていた<sup>(15)</sup>。10年後の2016年には、「図表でみる教育」（Education at a glance）においてOECDは、「日本の教員は大規模学級を管理運営しており、法定勤務時間は平均を大きく上回っている」と指摘している<sup>(16)</sup>。具体的には下記のとおり、多人数の学級規模の下で、わが国の教員はOECD加入諸国の平均と比べ年間300時間も多く勤務を余儀なくされている実態を明らかにした。

		日本	OECD平均
① 学級規模	初等教育	27人	21人
	前期中等教育	32人	23人
② 法定勤務時間数	初等教育	1899時間	1600時間
	前期中等教育	1899時間	1618時間

2017年4月に文部科学省は10年ぶりに「2016年度教員勤務実態調査結果」を発表したが、それはOECDの指摘を追認するものであり、小学校の教諭の場合は33.5%が、中学校の教諭の場合は57.7%が過労死ラインに達していた<sup>(17)</sup>。過労死ラインとは労働災害認定で使用される時間外勤務の基準であり、1か月100時間以上の時間外勤務または2～6か月間の月平均時間外勤務が80時間に達した場合に適用されるレッドカードである。現在の教育現場の多くは、経済至上主義の下でそれがすでに常態となっているのである。

このように、わが国では子どもや若者、そして教員も厳しい状況に置かれているのが現状となっている。新たに設置された浦和大学こども学部の学校教育学科において「どのような小学校教員を育てるか」という課題を考えると、まずはこの現実をしっかりと踏まえ、今日的な諸問題に対応した考察がなされなければならないのではないかと。こうした問題意識の下に、以下、

①『山びこ学校』の卒業式の答辞

②米国大統領の演説

③独仏共通歴史教科書

の三つの事例をとおり、具体的なイメージとして「あるべき理念」を検討することにしよう。

### 3. 『山びこ学校』の卒業式の答辞

#### 3.1 佐藤藤三郎の答辞

『山びこ学校』は、1951（昭和26）年に出版された山形県山元村立山元中学校2年生の学



級文集であり、担任であった青年教師無著成恭による生活綴り方指導の結晶である。43人の生徒が書いた詩や作文は当時の日本の社会で大きな反響を呼び、出版と同時にベストセラーとなるとともに、映画化され全国で上映された。青銅社から出された最初の『山びこ学校』は、百合出版と角川文庫を経て戦後50年の1995（平成7）年に岩波文庫に収められている。

この文庫本には、43名の生徒が卒業していくときに級長であった佐藤藤三郎が述べた答辞が収録されている。それは、次のような要旨の答辞であった<sup>(18)</sup>。

私たちが中学校にはいるころは、先生というものを殆んど信用しなくなっていました。私たちは昭和十七年の四月、小学校の一年生にはいったのです。戦争が終ったのは昭和二十年の八月で、私たちは小学校の四年生でした。先生というものはぶんなぐるからおそろしいものだと思っていたのが、急にやさしくなったので、変に思いました。その上私たちはしょっちゅう先生に変わられました。小学校の六年間は十一人もの先生に変わったのです。だから、無著先生が私たちの前に新しい先生として立った時も、「先生も一年位だべえあ。」などとこばかにしたようにいったのでした。

私たちは、はっきりいいます。私たちは、この三年間、ほんものの勉強をさせてもらったのです。たとえ、試験の点数が悪かろうと、頭のまわり方が少々鈍かろうと、私たち四十三名は、ほんものの勉強をさせてもらったのです。それが証拠には、今では誰一人として、人のわる口をかげでこそこそいったりする人はいません。ごまかして自分だけ得をしようなどという人はいません。私たちの骨の中しんまでしみこんだ言葉は「いつも力を合わせて行こう」ということでした。「働くことがすきになろう」ということでした。「なんでも何故?と考える」そして「いつももっといい方法はないか探せ」ということでした。

先生たちと別れることはさびしいことです。しかし私たちは人間を信じ、村を信じ、しっかりやっていく以外に恩返しの方法はないのです。皆さん、どうか私たちをいつまでもあたたかな目で見守って行ってください。

佐藤藤三郎のこの答辞には、先生はぶんなぐるから恐ろしい存在とされていた戦前の教育現場と、それとは対極にある終戦直後の教育実践がくっきり反映されている。

### 3.2 無著成恭の「詩」と「あとがき」

2011年、筆者は『山びこ学校』の舞台となった旧山元村（現上市市）狸森を訪問した。その2年前の2009年3月22日に閉校となった山元中学校に人影はなく、鉄筋コンクリートの校舎がぼつねんと立っているだけであった。正門の脇に石碑があり、その下に43名の生徒の氏名を記した石板が置かれていた。石碑は2004（平成16）年に建立されたもので、『山びこ学校』の基となった学級の文集「きかんしゃ」第1号に無著が寄せた次の詩が刻まれていた。

おれたちはきかんしゃだ

きかんしゃの子どもは

いつも力を合わせていこう  
 かげでこそそそしないでいこう  
 いいことは進んで実行しよう  
 働くことがいちばんすきになろう  
 なんでもなぜ?と考える人になろう  
 いつでももっといい方法がないか探そう

無著のこの詩はいわば『山びこ学校』の凝縮された精神であり、佐藤藤三郎はそれを答辞で引用したのだ。ここには、戦後の教育の出発点であり誰もが素直にうなづくことのできる素朴な教育観が表現されている。岩波文庫版『山びこ学校』の「あとがき」で、無著は次のようなことを述べている<sup>(19)</sup>。

明治維新のとき自らを後進国と自認した日本は、軍隊がつよくなれば世界は認めるだろうということで軍国主義でやってきたが、それが崩れた一瞬のすきにできたのが「やまびこ学校」である。しかし、今度は金持ちになれば世界中が認めるだろうということで、経済主義教育につっぱしている。そこで私は、日本人が人間として、世界市民として生きようとするとき、その原点を探る一つの資料にしてもらいたく、岩波文庫にのいる決心をした。

### 3.3 学校教育学科の目指すべき方向(1)

では、今回、浦和大学の学校教育学科に入学した学生はどうなのであろう。それぞれの小学校や中学校で、「経済主義教育につっぱしている」とされる教育をどのように受けてきたのだろうか。佐藤藤三郎のように「先生はぶんなぐるからおそろしい」という体験はないにしても、辛い経験はなかったか、あったとすればどのようなものか。また佐藤藤三郎は「私たちは本物の勉強をさせてもらったのです」と述べているが、今回入学した学生にとって「本物の勉強」という体験はあったのかどうか、あったとすればどのようなものだったのか、なかったのであればどのような勉強を「本物の勉強」と考えたらよいのだろうか。

そのような、自分自身のこれまでの学校生活を思い起こしながら、教師がいかに重い責任を伴う職業であるかを確認し、その上で近い将来の自分自身の教師像はどうあるべきかを課題とすることが、まず、求められるべきであろう。そして大学での4年間、さまざまなことを学びながらそこへ収斂させることにより、一人一人の学生が自分の目指すべき教師像をしっかりと抱いて巣立っていくようにすることが、過労死が問題とされる現在、新設学科の目指すべき方向であると言わなければならない。

## 4. 米国大統領の演説

### 4.1 オバマ大統領の退任演説とWe

米国の大統領であったバラック・オバマ氏は、2017年1月10日、シカゴにおいて大統領として最後となる退任の演説を行った。熱のこもった50分を越えるスピーチを、彼は次の言

葉で締めくくった。

Yes, We can! Yes, We did! Yes, We can! Thank you.

God bless you. And may God continue to bless the United States of America <sup>(20)</sup>.

オバマ氏は8年前の2009年1月20日に第44代大統領に就任したが、大統領選挙の期間中一貫して、ここにあるYes, We can. というフレーズを繰り返していた。同じ民主党内のヒラリー・クリントン氏と争ったときも、対立する共和党のジョン・マケイン氏と闘ったときも、常にYes, We can. を唱えていた。彼の支持者たちは誰もが卵を立てた形のピンバッジを胸に着けていたが、そこには上からYesとWeとcanの三つの文字が3段に分けてプリントされ、真ん中のWeはひときわ大きく表示されていた。さて、ここにあるWeは何を意味しているのだろうか。一人称複数主格の代名詞Weを、オバマ氏はどうして8年前の大統領選挙のときから8年後の退任のスピーチまでこだわり続けたのだろうか。

それは単に、自己の陣営の結束を強め支持を広げていくために用いたのでなく、オバマ氏がアフリカ系の黒人候補者であったことに起因してのことである、と推察すべきであろう。アメリカ合衆国にはもともとネイティブアメリカンが住んでおり、ヨーロッパからの白人系の移民がおり、かつては奴隷であったアフリカからの黒人や中南米のヒスパニックの人たちもいる。さらに日本や中国・韓国といったアジア系の人たちも混在している国柄であり、その中でこれまでは圧倒的に白人優位の社会であった。そこへケニア出身の父を持つオバマ氏が米国史上初のアフリカ系大統領となるべく立候補し、Yes, We can. と呼びかけた趣旨は、「我々は白人であれ黒人であれ、あるいはヒスパニックやアジアの出身であれ、すべて同じアメリカ国民ではないか。人種や人種差別を越えて我々は自由で平等な社会をつくるべきであり、それを我々はつくることができる」と訴えたことにあったと考えることができるのだ。

#### 4.2 リンカーン大統領のゲティスバーグの演説とWe

オバマ氏は周知のように奴隷解放で知られる第16代大統領リンカーンを崇拝していた。リンカーン大統領は数々の名言を残しているが、わが国で最も馴染み深いのは次のペンシルベニア州ゲティスバーグでの演説の一言である。

And that Government of the people, by the people, for the people shall not perish from the earth <sup>(21)</sup>.

「人民の、人民による、人民のための政治を、地上から絶滅させない」という民主政治の意義を強調したこの演説は、1863年11月19日に行われた。この年の7月の初め、ゲティスバーグでは三日間にわたり南北戦争で最大の激戦が戦われ、参加した南北両軍の四分の一の兵士がたおれたという。その戦場の一部を国立墓地として戦没兵士に捧げるための式典が行われ、そこへリンカーンは大統領として登壇したのである<sup>(22)</sup>。この演説は総語数が272であり、一人称の主語として複数のWeが10回使われているが単数のIは一度も使用されていない。ourは2回、usは3回出て来るが、myとmeはゼロである。リンカーンは、アメリカ国内が北と南に別れ多くの犠牲者を出したことを念頭に、「北も南もいがみ合うことは止めよ

う、我々は同じアメリカ国民ではないか」との祈りの気持でWeを繰り返し用いたのである。そしてオバマ氏もまた選挙戦で、このことを十分意識した上でYes, We can. と聴衆に熱く語り掛けたと推測できるのである。

リンカーン大統領とオバマ大統領に見られるWeの意識は、「我々は互いに仲間だ」という連帯の意識であり、その根底には「本来、我々は皆平等であり自由である」という考え方がある。「互いに対等な人間として生きる権利を持っており、互いの尊厳を認め合い尊重する」という思想に立っているのである。言い換えれば「他者に対する共感性を大切にする」ということであり、その世界観は「社会は互いにながみ合う場ではなく、皆が等しく幸福を追求していく共生の場であるべきだ」ということである。

#### 4.3 トランプ氏について

現在、わが国を含め世界の各地では、そのように共感し共生を目指すWeとは反対に、対立と憎悪と抗争の動きが強まっており、それを故意に煽る政治家が出現している。オバマ大統領の後任のドナルド・トランプ氏は、その代表的な人物と言えるだろう。彼はドイツの移民の家系であり、祖父のフレデリック・トランプはドイツ中西部のラインラントプファルツ州の小さな村カルシュタットの出身である。この村はワイン用のブドウ栽培が主な産業で、現在の人口は1200人ほど。ここに生まれ育ったトランプ大統領の祖父は生活苦から16歳の1885年にアメリカのニューヨークへ渡り、さらにカナダのクロンダイク地方へ向かう。当時、アラスカに近いこの地域はゴールドラッシュに沸いており、彼はそこで金鉱を採掘している鉱夫向けの食堂を開いた。現金に窮する鉱夫たちは食事代として小石を置いていったが、それはナゲットという小さな金鉱石であり、このことによりまとまった資金を手に入れた祖父は不動産に投資し大金持ちになったとされている<sup>(23)</sup>。祖父の時代の1880年代は、10年間でドイツから約100万人の人々がアメリカに移住しており、カルシュタットという村からはトマトケチャップで知られる食品メーカー「ハインツ」の創始者ヘンリー・ジョン・ハインツもその一人であった<sup>(24)</sup>。カルシュタットには祖父が育った質素な生家が今も残されており、トランプ氏は機会があれば訪問したいとしているが、しかしながらドイツのマスコミのアンケートによるとドイツ国民の80%以上がトランプ氏を支持しない結果となっている<sup>(25)</sup>。自ら移民の系譜でありながら移民を排斥し、人種差別を口にし、女性を蔑視し、障がい者を揶揄するトランプ氏に対し、はっきり拒否反応が示されているのであり、トランプ氏の訪問は歓迎される可能性が著しく低い。

#### 4.4 学校教育学科の目指すべき方向(2)

トランプ大統領のアメリカのみならず、トルコや東欧のハンガリー、ポーランドなど世界各地においてナショナリズムとポピュリズムが台頭し、社会の分断と対立が先鋭化している。その動きの中で、これまで人類が永年にわたり幾多の犠牲を経ながら獲得してきた自由や平等、基本的人権や博愛、そして平和といった普遍的な価値観が大きく揺らぎ始めている。民

主義の危機ともいべきこの状況にあって、私たちはリンカーンの演説にあるWeの意識、「他者を尊重し、他者と連帯する」という意識をより鮮明に意識化することが求められているのではないか。特に教師を志す学生には、これからの人生において様々な人々との出会いが待っている。たくさん子どもたちとの出会いをはじめ、その保護者、あるいは職場の同僚や先輩、さらには地域の人たちなど実に多くの出会いが待っている。その中で、そうした人々との結び付きを大切にしながら「我々の関係」を広く深く築いていくことができるかどうかは、教師としての人生が豊かになるかどうかの決定的な重要事である。新設の学校教育学科では、こうした他者との連帯を志向した教員養成を、実践的課題として明確に位置付けていくべきであろう。

## 5. 独仏共通歴史教科書

### 5.1 独仏共通歴史教科書第3巻の出版

2006年7月10日、ドイツ南西部の都市ザールブリュッケンにおいてある式典が開催された。ドイツとフランスの両国が共同して作成した高校生用の歴史教科書の完成を祝う催しであり、内容がすべて同じドイツ語版とフランス語版の教科書が双方で出版されたのである。ドイツとフランスはこれまで、1870年代の普仏戦争、1910年代の第一次世界大戦、1940年代の第二次世界大戦というように、互いに敵と味方に分かれヨーロッパの覇権を巡り戦火を交えてきた。その両国が歴史認識という困難な問題を抱える教科書を共同で作り上げたことは、画期的な出来事であると評価しなければならない。

この歴史教科書は全3巻で<sup>(26)</sup>、

第1巻 「古代から1815年までのヨーロッパと世界」の歴史

第2巻 「ウィーン会議から1945年までのヨーロッパと世界」の歴史

第3巻 「1945年以降のヨーロッパと世界」の歴史

となっている。このうち最初に出版されたのはドイツのギムナジウム及びフランスのリセの最終学年用の第3巻であり、ザールブリュッケンの催しはそのセレモニーであった。

### 5.2 独仏共通歴史教科書第3巻の内容

第3巻の教科書（ドイツ語版）はA4サイズの336頁で手にずしりと重く、「序文」には次のようなことが記されている<sup>(27)</sup>。

この教科書によって新たな地平が拓かれることになる。ドイツとフランスの高校の最終学年の生徒と教師に、共通の歴史教科書が初めて提示されるのである。いつの日かヨーロッパ共通の歴史教科書が作成されるとすれば、その土台ともなりえるものである。複雑な多国間関係にある今日の世界で生きていくには、全体を見渡すことのできる多元的な歴史観が必要であり、それを生徒や教師に提供することが重要である。ドイツの若者とフランスの若者がこれほど相手の歴史にふれることはかつてなかった。それはさらにヨーロッパの地平、世界の地平へと向かうことになる。

1945年以降の世界においては、この道以外にどのような道があるだろうか。

教科書の内容は全体が5部17章で構成されており、本文の記述は3分の1程度で写真や図表・囲みの解説が多く、巻末に主要人物一覧と用語解説がある。冒頭の第1部第1章を開くと、「第二次世界大戦の結果」という表題の下に半ページ大の写真が掲載されている。広島原爆ドームの写真であり、そこに下記の解説文が添えられている。

広島への原子爆弾の投下と黙示録的なその惨状は、原子力時代の到来を告げた。広島県産業奨励館の廃墟は、人類がそれ自身破壊者であることを警告し、それを忘れぬよう現在もそこに立っている。

そして本文が次のように続く<sup>(28)</sup>。

第二次世界大戦は1914年から1918年の第一次大戦と比べ物的にも人的にもはるかに莫大な資源が動員された総力戦であった。(中略)

ドイツが設置した強制収容所が解放されたとき、想像を絶する犯罪が明らかになった。およそ600万人のユダヤ人、ほぼ50万人のシンティ・ロマ、さらに数十万人の人々が組織的に抹殺されていたのだ。あまりにも非人間的なこの衝撃から「人道に対する罪」という新たな概念が生まれ、それはニュルンベルクと東京における国際軍事裁判において犯罪構成要件となった。

アメリカによる日本の広島と長崎への史上初の原子爆弾の投下は、公式には早期に戦争を終結させるためと説明されているが、しかし一瞬にして13万人もの人々を劫火で死に到らしめたことは、史上かつてない凄惨で残忍な出来事であった。放射能の影響によりその後も20万人もの人々が死亡しており、後遺症は現在も続いている。このような原爆投下は戦略上の必要性があったのだろうか。原爆を投下しなければ日本を降伏させることができなかったのだろうか。アメリカは膨大な費用をかけて開発した新兵器の破壊力を試す機会を窺っていたのではないか。それによってソビエトに対し優位を見せつけようとしたのではないのか……。

### 5.3 ヴァイツェッカー大統領の「荒れ野の四〇年」

このような教科書が登場したことについて、私たちは複雑な思いを抱かざるをえない。ドイツとフランスの若者が、これから生きていく「現代」を学ぶときに広島原爆ドームから入っていくこと、日本と同じく第二次大戦で敗戦国となったドイツが、今でも自国の戦争責任を認識しようと努めていること、そして自らの恥辱をこれまで仇敵であったフランスとの共同作業の中で明記し、それを次世代に伝えようとしていることなど、わが国の歴史教育の根幹にかかわる問題提起となっているのである<sup>(29)</sup>。

過去の負の遺産とどう向き合うかは日本とドイツに共通する困難な課題であるが、すでにそこに大きな差異が生じていることは明白である<sup>(30)</sup>。ドイツにおいては国を代表する政治家が率先して痛みを伴う真摯な言葉によって自国の罪責を語り、近隣諸国に和解を求めてきた。1970年12月7日、ワルシャワを訪問した西独のヴィリー・ブラント首相は、ユダヤ人

ゲットー跡の記念碑の前にひざまずき頭を垂れたが、その姿はドイツとポーランドの関係修復の転換点となった。またドイツの終戦40周年にあたる1985年5月8日、リヒャルト・ヴァイツゼッカー大統領はドイツ連邦議会で演説を行ったが、これはわが国でも「荒れ野の四〇年」<sup>(31)</sup>として今も多くの人々の記憶の中にある。特に「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」<sup>(32)</sup>というフレーズはよく知られているが、さらに演説の最後の節で若者に対し熱く呼び掛けた次の言葉も感動を呼んだ。

若い人たちにお願いしたい。

他の人々に対する敵意や憎悪に駆りたてられることのないようにしていただきたい。

(中略)

若い人たちは、互いに敵対するのではなく、互いに手を取り合って生きていくことを学んでいただきたい<sup>(33)</sup>。

#### 5.4 学校教育学科の目指すべき方向（3）

独仏共通歴史教科書が生まれた背景には、「荒れ野の四〇年」の演説で繰り返し強調された歴史への正対と関係諸国への贖罪があった。その上で「若い人たちは互いに手を取り合って生きていくことを学んでほしい」と語るヴァイツゼッカーの言葉は、歴史教育だけでなく、教育という営みすべてを網羅した教育の根源的な意義を示していると言える。すでに見た福沢諭吉や芥川龍之介が批判した「桃太郎」の時代の教育は、「それ自身破壊者」としての反教育的行為であった。そのような方向に再び向かうことのないよう努めることは、今日の教育の大前提でなければならない。教員養成の任にあたる私たちの学校教育学科においても、それは最も切実かつ深い認識として共有されなければならないであろう。

## 6. おわりに

以上、新設された学校教育学科における教員養成理念の具体的イメージについて検討してきたが、それを要約すれば、次のような「桃太郎」となるだろう。

ある日、桃太郎はおじさんとおばあさんに言いました。

鬼が島には、困っている子どもたちがたくさんいるそうです。たいへんなことになっていると、村の人たちが心配をしていました。朝ごはんを食べることのできない子どもたちも、いっぱいいるということです。

そこで、友だちのイヌ、サル、キジと「何か僕たちにできることはないだろうか」と相談をしてみました。その結果、みんなで鬼が島へ行くことにしよう、きっと役に立てることがあるだろう、ということになりました。

どうか、僕たちを鬼が島へ行かせてください。

それを聞いたおじさんとおばあさんは、それはとてもよいことだと大いに喜び、鬼の子どもたちのために黍団子をいっぱいつくって、桃太郎たちに持って行かせることにしました。

桃太郎とイヌ・サル・キジを迎えた鬼が島では、鬼の子どもたちがそれはそれは大喜び、親たちもみんな両手を挙げて大喜び。長いこと閉ざされていた学校も再開され、桃太郎たちはその学校で子どもたちを教えることになりました……。

## 注

- (1) 2017年5月18日に「浦和大学こども学部学校教育学科開設記念プロジェクト」として「第1回学術講演会」が開催された。本稿はそこで行った「どのような小学校教員を育てるか」と題する筆者の講演を文章化したものである。なお一部、補足していることをお断りしておく。
- (2) 上越教育大学では「創設の趣旨・目的」として「教育者としての使命感と人間愛に支えられた広い一般的教養、教育の理念・方法及び人間の成長や発達についての深い理解、教科に関する専門的学力、優れた教育技術など、専門職としての資質能力」を備えた教員養成を謳っており、福岡教育大学の場合は「理念の目標」として「豊かな教養と深い専門的知識技能を獲得させることによって知的発達と人間的成長を促し、もって有為な教育者を養成するとともに、地域及び我が国の文化の発展に寄与することを目指す」と述べている。東京学芸大学と同じように、他の大学の「大学案内」や「アドミッション・ポリシー」においてもこうした基調の理念が一般的である。
- (3) 子どもの貧困率（相対的貧困率）は「18歳未満で貧困線に届かない人の割合」のことで、貧困線は「国民一人一人の可処分所得を計算し、その真ん中の所得の半額」とされている。厚生労働省はこれを3年ごとに調査しており、2017年発表の数値13.9%は前年の6～7月に調査されたもの。なお、この調査のときの貧困線は122万円であった。
- (4) 「非正規雇用」の増大は団塊の世代の退職後の再雇用が大きな要因であるが、総務省の「労働力調査」（2016年平均）では、正社員として働く機会が見つからず非正規社員として働く者（不本意非正規）の年齢別割合は、25-30歳が24.3%と最も高い。なお2015年の国勢調査の結果、50歳まで一度も結婚したことがない人の割合を示す「生涯未婚率」は男性で23%、女性で14%と2010年の結果と比べ急上昇し過去最高値を更新している。年齢別では25-29歳が男72.7%、女61.3%、30-34歳が男47.1%、女34.6%と高い割合を示している。
- (5) 森林太郎他撰『日本お伽集2』平凡社 1973 pp.127-145
- (6) 堀内敬三、井上武士編『日本唱歌集』岩波文庫 1958 pp.166-167
- (7) 遠山茂樹『福沢諭吉』東京大学出版会 1970 pp.45-48
- (8) <https://ja.wikisource.org/wiki/ひびのおしえ> (2017.4.22 アクセス)
- (9) <https://ja.wikipedia.org/wiki/ひびのおしえ> (2017.4.22 アクセス)
- (10) 『芥川龍之介全集5』筑摩書房 1987 pp.391-400
- (11) 扇谷正造『桃太郎の教訓』PHP研究所 1985 pp.8-9, 298-299
- (12) <https://en.oxforddictionaries.com/karoshi-definition> (2017.5.1 アクセス)  
(in Japan) death caused by overwork or job-related exhaustion
- (13) 宮本憲一『現代資本主義と国家』岩波書店 1981 p.8, 203, 261
- (14) 拙著『私たちの教育紀行』花伝社 2011 pp.132-138
- (15) 外務省経済局政策課調査室「OECD対日経済報告書の概要」2006.7.19
- (16) 文部科学省生涯学習政策局政策課「図表で見る教育OECDインディケータ」
- (17) 文部科学省初等中等教育局「教員勤務実態調査結果（平成28年度）の集計（速報値）について」2017.4.28
- (18) 無著成恭編『山びこ学校』岩波文庫 1995 pp.297-301



- (19) 同書 p.335
- (20) <https://www.nytimes.com/2017/10/10/101us> (2017.5.2 アクセス)
- (21) <https://en.wikipedia.org/GettysburgAddress> (2017.5.3 アクセス)
- (22) 高木八尺、斎藤光訳『リンカーン演説集』岩波文庫 1957 pp.178-180
- (23) <https://de.wikipedia.org/Frederick Trump> (2017.5.4 アクセス)
- (24) <https://de.wikipedia.org/wiki/Kallstadt> (2017.5.4 アクセス)
- (25) <https://welt.de/politik/ausland/live59203515> (2017.5.4 アクセス)  
 アメリカ大統領選挙の投開票は2016年11月8日に行われた。トランプ氏の当選が確実となった翌9日、ドイツ第2テレビ(ZDF)はこの結果をドイツ国民がどのように受け止めているか世論調査を行った。それによると、
- ①65%が独米関係は「悪化する」とし、26%は「変わらない」、「よくなる」は3%、
  - ②国際紛争が「増加する」は60%、「変わらない」は25%、「減少する」は10%、
  - ③トランプ氏の就任は「極めて好ましい」が2%、「好ましい」が9%、「好ましくない」は37%、「極めて好ましくない」は45%、
- となっており、トランプ氏の大統領就任については82%が否定的であった。
- (26) ドイツ語版の第1巻、第2巻、第3巻のタイトルは次のとおり。
- 1 Geschichte: Europa und die Welt von der Antike bis 1815
  - 2 Geschichte: Europa und die Welt vom Wiener Kongress bis 1945
  - 3 Geschichte: Europa und die Welt seit 1945
- (27) *Geschichte: Europa und die Welt seit 1945*, Ernst Klett, 2006、pp.6-7
- (28) 同書 pp.11-14
- (29) 川喜多敦子(中央大学文学部教授)『ドイツの歴史教育』(白水社 2005 pp.9-10)では次のように紹介されている。
- ・歴史教育ではとくに現代史が重視され、ヴァイマル共和国から現在まで、つまりナチ時代を含む現代史を一年かけて学習する。また強制収容所をはじめとするさまざまな記念館、歴史博物館、展示会の見学が校外学習プログラムとして授業に組み入れられている。
  - ・ナチの過去に対する教育を通して排外主義や極右思想への傾倒に対抗することが意識されている。また過去にドイツが侵略した近隣諸国との関係では、和解と共生のための歴史認識を育むという視点が含まれている。
- (30) 戦後70年にあたる2015年、朝日新聞社は敗戦国である日本とドイツで世論調査を実施した。日本での調査は3～4月に郵送で、ドイツでは3月に電話で行った。「被害を与えた周辺国と、今、どの程度うまくいっていると思うか」という質問に対して、日本は「大いにうまくいっている」は1%に過ぎず、「ある程度うまくいっている」は45%。ドイツは「大いにうまく…」が39%、「ある程度うまく…」が55%であった。詳細は2015年4月18日の朝刊に掲載された。
- (31) わが国では「荒れ野の四〇年」として知られているが、ドイツでは特別な題名があるわけではない。ドイツ連邦政府は演説が行われた翌日付けの政府広報誌(Bulletin 9. Mai 1985)に全文を掲載したが、そこでは「ヨーロッパにおける戦争及びナチスの暴力支配終結40周年にあたっての演説」と事務的に紹介しているだけである。「荒れ野の四〇年」の命名は、雑誌『世界』の編集長であった故安江良介氏による。ドイツ現代史が専門の永井清彦氏の翻訳により1985年11月号の『世界』に載り、翌86年2月に岩波ブックレットの一冊として出版され、2009年10月にはその新版が出されている。永井氏は新版で、「ドイツでは日本のような呼び方こそないものの、極め付きの演説という意味で定冠詞を付けDie Redeと言われることがある」と解説している。「これこそが

演説だ」という「The エンゼツ」のニュアンスとのこと。

(32) ドイツ連邦政府広報誌「Bulletin」1985.5.9, No.52, p.443

Wer aber von der Vergangenheit die Augen verschließt, wird blind für die Gegenwart.

(33) 同誌 p.446

Die Bitte an die jungen Menschen lautet:

Lassen Sie sich nicht hineintreiben in Feindschaft und Haß gegen andere Menschen.

.....

Lernen Sie, miteinander zu leben, nicht gegeneinander.

## Summary

What type of elementary schoolteachers do we have to train at our department?

Yoshinori Inaba

In April 2017, Urawa University established the Department of School Education to train elementary schoolteachers. The aim of this paper is to consider, what type of elementary schoolteachers we should train at our department.

Looking back on our history, Momotaro, a Japanese old story, was abused for not only militaristic education before the Second World War, but also was used for economic superiority principles after the war. Nowadays, we face many kinds of serious problems, such as child's poverty and young worker's temporary employment system. In addition, teachers' working condition is also getting much worse.

On the other hand, we have a lot of favorable phenomenon. We can inspect many case studies from different points of view: especially ① Graduation Address of Yamabiko-Gakko, ②Obama's Farewell Speech and Lincoln's Gettysburg Address, ③ common history textbooks of Germany and France.

From those points of view, we examine the educational philosophies of elementary schoolteachers' training at the newly-founded Department of School Education.

**Keywords** Momotaro, Yamabiko-Gakko, Presidents of USA,  
common history textbooks in Germany and France

(2017年11月16日受領)

